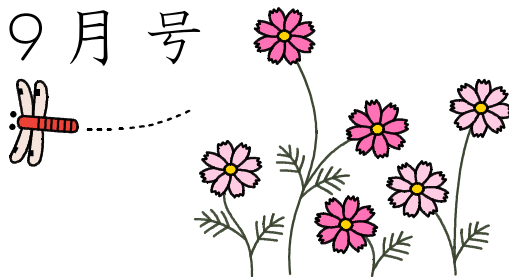


図書館だより 9月号



平成30年9月
大洲農業高校図書委員会

新刊が入っています！

話題の本が入っています。

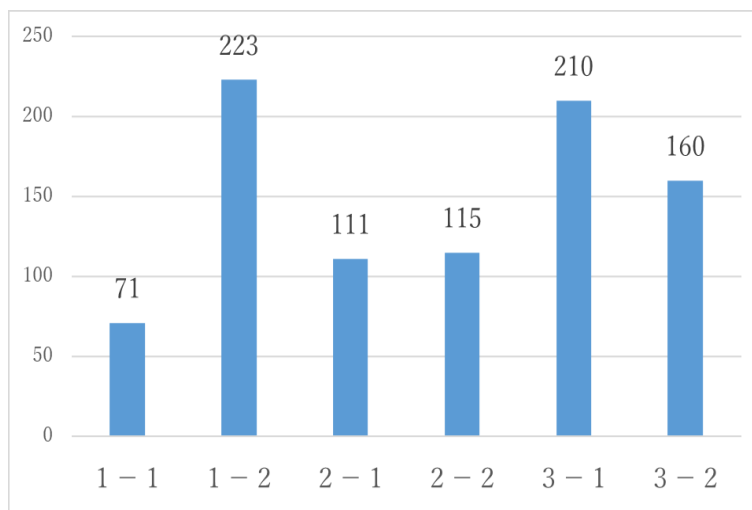
きっとあなたの世界が広がります。

昼休み、放課後のちょっとした時間を、ぜひ図書館で過ごしてみてください。

1学期の図書の貸し出し 合計 890冊（1人平均 4.3冊）

目標は、1人10冊です！ぜひ、図書館の本を読んでください。

クラス別貸出冊数



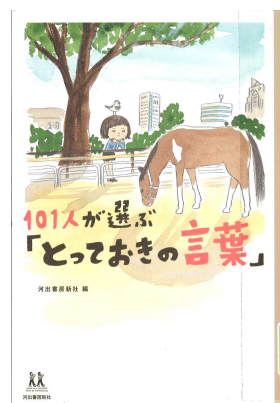
本の言葉

林望の選んだ言葉「きっと誰かが見ている」

（中略）

「焦るな焦るな、真面目な努力はきっと誰かがみているから」
そしてそれはたしかにその通りであった。私はこの言葉にどれほど
ドンと背中を押していただいたか、計り知れない。

『101人が選ぶ「とっておきの言葉」』（河出書房新社）



本の紹介



『ファーストラヴ』島本理生（文藝春秋）

夏の日の夕方、多摩川沿いを血まみれで歩いていた女子大生が逮捕された。彼女は包丁で父親を刺殺していた。臨床心理士の真壁由紀は、その女子大生、さらにその周辺の人々と面会を重ねることになる。そこから浮かび上がってくる、女子大生の過去とは？

「家族」について、そして、自分の生き方について考える1冊です。第159回直木賞を受賞しています。



『きみの言い訳は最高の芸術』最果タヒ（河出書房新社）

著者の「最果（さいはて）タヒ」さん、御存じですか。

詩人で、小説やエッセイも手がけています。

『愛の縫い目はここ』『死んでしまう系のぼくらに』『十代に共感する奴はみんな嘘つき』『星か獣になる季節』『かわいだけじゃない私たちの、かわいだけの平凡。』『空が分裂する』など、そのタイトルに惹かれる人も多いのでは？この本『きみの言い訳は最高の芸術』は、最果タヒさんのエッセイです。

詩集『夜空はいつでも最高密度の青色だ』は映画化され、[Alexandros]の「ハナウタ」という歌の歌詞を書くなど、様々な形で「言葉」を発信されています。

SNSでも、その言葉に触れることができます。最果タヒさんの世界にどんどん引き込まれます。ぜひ、検索してみてください。



『映画ノベライズ 銀魂』

原作／空知英秋

脚本／福田雄一

小説／田中創

（集英社）

「映画を観ました！」という皆さん、小説でも楽しんでみませんか？さらに魅力的な銀魂の世界が味わえるはずです。

ちなみに、図書館で好きなキャラクターを聞いてみました。2年1組平井くんは「エリザベス」、3年2組曾根さんは「神楽」、谷本先生は「近藤勲」とのこと。あなたの好きなキャラクターについて、図書館に来て話ってください。お待ちしております。

